

日本性科学会 ニュース

第34巻 第2号

平成27年(2015年) 6月

発行人: 大川 玲子 印刷所: (株) 紹文社

第35回日本性科学会学術集会 / 第16回性科学セミナー

日 時: 2015年10月11日(日) 第35回日本性科学会 / 2015年10月10日(土) 第16回性科学セミナー
場 所: 埼玉県県民健康センター 1F 大会議室A およびB、2F 大ホール
TEL 330-0062 さいたま市浦和区仲町3-5-1 TEL 048-824-4801
JR 浦和駅(西口)より800m(徒歩約10分)またはJR 中浦和駅(西口)から1,100m(徒歩13分)
参 加 費: 日本性科学会 5,000円(学生1,000円)、性科学セミナー 3,000円(学生1,000円)
日本性科学会+性科学セミナー 7,000円(学生2,000円)
会 長: 石原 理 埼玉医科大学産科婦人科学教授
テ マ: 「性のディスクールを超えて」

特別講演: 「民族生殖理論と性」	東京外国语大学総合国際学研究院教授(文化人類学)	栗田 博之
教育講演: 「骨盤臓器脱(POP)と性機能」	防衛医科大学校名誉教授	永田 一郎
理事長講演: 「日本性科学会のあゆみ(仮)」	日本性科学会理事長	大川 玲子
シンポジウムI: 「コミュニケーションとしての性を教える」	座長	金子由美子
	埼玉大学教育学講座教授	田代美江子
ヘルスプロモーション推進センター・オフィスいわむろ代表		岩室 紳也
	日本性の健康協会理事	やまがたてるえ
	埼玉医科大学地域医学・医療センター助教	高橋 幸子
シンポジウムII: 「エ・アロール～中高年からの性を謳歌する」	座長	堀口 貞夫
	川崎医科大学泌尿器科教授	永井 敦
	主婦会館クリニック医師	堀口 雅子
	日本性科学会カウンセリング室	金子 和子
	埼玉医科大学教授・女性骨盤底医学センター長	岡垣 竜吾

一般演題:

一般演題募集: 一般演題発表を希望される方は、演者氏名、所属、連絡先住所・電話・FAX番号、抄録原稿800字以内を下記e-mailアドレスへお送りください。採否、発表方法の詳細は後日連絡致します。なお、一般演題の発表はすべてパソコンプロジェクターを使用する口演のみの予定です。

演題締め切り: 2015年7月25日(土)

送付先: jsss35@saitama-med.ac.jp

合同懇親会(日本性科学連合第16回性科学セミナーと合同): 2015年10月10日(土) 性科学セミナー終了後
埼玉県県民健康センター 1F 大会議室C 会費: 5,000円

第35回日本性科学会事務局: TEL 350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

埼玉医科大学産科婦人科学教室 担当: 鈴木元晴

TEL: 049-276-1347 (産婦人科医局) FAX: 049-294-8305

E-mail: jsss35@saitama-med.ac.jp

学会ホームページ: <http://jsss35.kenkyukai.jp/>

Vol. 34

日本性科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4F

No.
2

TEL・FAX 03-3868-3853

思春期以前の性同一性障害

東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース講師 石丸 径一郎

今回の症例研究会では、性別違和を訴える思春期以前の小児の事例を提示し、ディスカッションを行った。

日本精神神経学会は2012年に「性同一性障害に関する診断と治療のガイドライン（第4版）」を出した。これにより、小児の性同一性障害に対して、Tannerステージ2以降に達しているケースには、慎重な検討と手続きを踏んだ後に、GnRHアナログ投与などの二次性徴抑制療法を行うことが可能となった。これを実施すると、本人は望まない身体の変化を止めておくことができ、今後、より積極的なクロスセックスホルモン療法や手術療法を行うかどうか、考える時間を稼ぐことができる。

このような新たな内分泌的治療の検討の実際も含めて、ここでは、症例研究会でのディスカッションからの考察を以下に述べたい。

【言語的表現能力】

二次性徴抑制療法を行うかどうかを検討する場合、患者は小学生または中学生ということになる。何が起きるのかということの理解力、この先、また大人になるとどうなるのかということを見通す予測力、選択肢に対して時間的にある程度一貫した意思を持つ力などについて、大人と同じように扱うことはできない。十分に時間をかけて心理教育・情報提供を行い、どのようにしたいかという意思を何度も確認することが重要である。

【ラポール形成】

大人の場合は多くの場合、よく知らない相手にでも自分のやりたいことを説明して、情報を得て、相談し、意思を決定することができる。小児では、よく知らない人にはまず心を開かないし、最初は恥ずかしがって親の後ろに隠れたり、早く会話を終わらせようと短い返事に終始したりといふことも見られる。情報を提供してよく相談し、十分な意思決定をしてもらうためには、医療者には小児とラポールを形成する能力が求められる。

【親子の意思のアセスメント】

性別違和のある小児は、親や養育者とともに来院・来談する。患者である小児の意思（女性として生活したい等）や性役割行動（服装・髪型等）は、親の意思と融合している場合がある。親子の意見が一致している時、本当に意見が一致している、何も考えずに親の言いなりになっている、親が怖くて言いなりになっている、親を思いやって親の意思に従っている、などの可能性が考えられる。親子の意見が食い違っている場合も、本当に食い違っているのか、親に反抗するために異なる意見を言っているのか見極める必要がある。このため、親子を分離してそれぞれ面接することも重要である。親子を分離する面接は、子どもが嫌がることもあるので、上述のラポール形成が重要である。

【二次性徴の理解】

大人としては当たり前と思っている二次性徴の実際は、子どもとしてはまだ経験しておらず、深く理解していないことも多い。保健の授業でどのようなことを習っているか確認し、さらに今後の意思決定をしていくために、他の同年代の子供たちよりも深い理解が必要であることを伝えたい。二次性徴の具体的な変化について詳細に確認し、それぞれに対してどの程度嫌悪感を持っているか押さえておくことが重要である。

【コミュニティの調整・教育】

子供が生活している主な場は、学校と家庭である。学校では、体育の授業、宿泊を伴う行事、身体接触を伴う行事、トイレや更衣、名簿が男女別かどうか、名前や服装の扱いなどについて詳細に確認し、それぞれについての対応を相談する必要がある。しかし当事者と親がすべての対応を背負わなければならないと考えるのは一方的である。不要な性別の区別を減らしていく、プライバシーを尊重する雰囲気をつくる等、むしろ学校環境全体の方を調整・教育していく取り組みも行っていくことが望ましい。家庭についても、きょうだいや親戚とのやり取りで困ることがないかどうか確認しておきたい。

症例研究会は、以下の通り2ヶ月に1回、18:30～20:30に御茶ノ水の事務局にて開催しています。今後の症例・話題提供者も募集しております。

2015年7月30日(木) 発表者：中野有沙（株式会社 典雅）、9月30日(水)、11月26日(木)、

2016年1月20日(水)、3月31日(木)

※奇数月に開催。原則として最終週に開催し、開催曜日は木曜と水曜を交互に配置しています。発表者の都合等により日程変更となる可能性があります。参加ご希望の方は事務局にお問い合わせください。

セックスセラピストとしてのこれまで、現在、そしてこれから

松原徳洲会病院婦人科 福本由美子

セックス・セラピスト資格更新の時期を迎え、これまでの道のりと現在の活動、そしてこれからについて書かせていただきます。

大阪府下の一般病院で産婦人科医として勤務している時に、診察を手伝ってくれていた看護師さんが、「患者さんに性の相談をよく持ち掛けられていると思う」と言っていました。婦人科手術後の患者さんからのご相談が多くなったように思います。十分に答えられずに戸惑っていた矢先に、「セックス・カウンセリング入門」(日本性科学会監修)を、日本産婦人科医会の会報の書評コーナーで見かけました。

その後、鎌倉の急性期病院で勤務していた時に、「セックスができないとのことで来院されましたが、痛がって診察すらできません。」という紹介状を持った患者さんがやってきました。性器・骨盤痛/挿入障害と思われましたが、実際に患者さんを診察するのは初めてでした。

そこで「カウンセリング入門」の該当ページを執筆されておられた山崎高明先生にお電話を致しました。いきなり電話をかけた私の話を丁寧に聞いてくださり、「鎌倉で働いているなら、日赤医療センターの金子和子先生に相談してみてはどうか」とお勧めいただきました。金子先生から学会や症例検討会のことをお伺いし、患者さんの訴えや診察所見を携えて検討会に伺っては、大川玲子先生を始め学会員の先生方から直接アドバイスをいただきたり、研修会に参加したりして診療を開始しました。それが私にとっての性治療のスタートでした。

2例目の患者さんことは今もはっきり記憶しています。妻は30代半ばで妊娠希望がありました。性器・骨盤痛/挿入障害の患者さんでしたが、何度も話しても夫が来院しないままに妻の治療は順調に進みました。すると突然「妊娠さえできれば性交はできなくてもよい。夫がそれでいいと言っているので私もそれでいい。」と話されました。精子運動率が低く子宮内に精子を注入する人工授精が必要でしたが、1回目の人工授精で妊娠が成立し、性治療を行えないままに出産されました。振り返ると夫には何らかの射精障害などの不具合があり、それが知られそうになって性治療が中断に至った可能性を感じます。夫婦それぞれの問題点を丁寧に聞き取っておくことや夫に泌尿器科への受診をしていただくようにしておけば異なった転帰となっていた可能性を感じます。

現在、一般婦人科診療の傍ら、主に挿入障害の患者さんを拝見しております。他に不妊治療専門施設でも性治療を行っております。不妊治療の場面では排卵のタイミングに合わせて性交を行う日を指示することや時間待ちながら精液採取をする場面もあります。治療が進むにつれ、性交はキンシップを楽しむものではなく、失敗は許されないというストレスを伴うものとなってしまいがちです。いわゆる性障害とは少し異なりますが、実際の臨床の場面では、セラピストが面談することで性の悩みを語っていい場を提供する形となっています。

不妊認定看護師制度が始まったときには性障害もカリキュラムに組み込まれ、森村美奈先生とともに講師を担当いたしました。かつては「性交していないなら妊娠できない。性交してから来院するように」といった門前払いがあったと聞きます。

一時、尿失禁や骨盤内臓器の下垂が起きる骨盤臓器脱(性器脱)、頻尿や尿意切迫感といった下部尿路症状を診察する女性泌尿器科で勤務していました。

そこで、間質性膀胱炎という膀胱に尿がたまることで激しい違和感や痛みが生じる特殊な膀胱炎の患者さんと出会うことになりました。性交痛を伴う方も多く、医師にさえ相談できない方が多くみられました。尿失禁や骨盤臓器脱も性交の場面で大きく差し障りが生じます。パートナーに不快感を与えるかもしれないという不安が夫婦関係に影響している場合があります。性治療の経験が増えるにつれて踏み込んで具体的に説明する場面が増えたように感じています。

婦人科で性治療に関わる者として、医療者のみならず一般の方に性障害や性治療についてもっと伝えたいという思います。2015年4月14日配信のgooヘルスケアという健康情報サイトで「性交痛」を取り上げました。

(<http://health.goo.ne.jp/column/healthy/h003/0201.html>)

膣の炎症や萎縮性変化、性反応が十分起きる前に挿入を試みるような性交自体の不具合、そして、性器・骨盤痛/挿入障害、間質性膀胱炎なども痛みの要因として取り上げました。

奈良県下の総看護師長が集まって行われた研修会で性障害と性治療についても解説いたしました。参加者から「初めて聞いた分野だ」という声が聞かれました。

様々な場での女性のための健康セミナーの講師として伺うことがあります。その中にも性交痛についての話をきっかけに性治療についての説明を織り込むようにしています。

これからも最先端の先生方の取り組みを拝見し、ご指導をいただきつつ、今後も治療や情報発信に携わっていけれどと思います。

資格認定委員会より

日本性科学会副理事長（認定制度担当） 阿部 輝夫

日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定規定、並びに更新規定（日本性科学会雑誌vol.1に掲載）に基づき、2015年度の新規資格認定並びに更新資格認定を行います。

資格認定申請期間は、新規・更新ともに8月1日～8月31日です。新規資格認定希望者は、申請書類を日本性科学会事務局までご請求下さい。資格更新該当者には、事務局より7月中に更新申請書類を郵送いたします。

いずれの場合も資格認定規定を御熟読の上、ご申請下さい。御不明な点は学会事務局にお問い合わせ下さい。
(tel 03-3868-3853 受付時間 月・水・金 10:00～13:00)

セックス・セラピスト資格を取得して

公益財団法人慈愛会 今村病院泌尿器科 内田 洋介

この度入会10年を経てようやく認定セックス・セラピストの資格を取得することができました。これも、くじけそうになったときに励ましていただいた聖隸浜松病院、今井伸先生のおかげです。

我々泌尿器科医はED診療をする際、どうしても心理的なアプローチが必要な場合があります。だいぶ以前は心療内科や精神科の先生にコンサルトしていましたが、残念ながら鹿児島には性治療を専門とされている精神科の先生がいらっしゃらず自分でやるしかないと思ったのが、性科学会に入会した動機でした。

以来、性治療研修会(現セックス・カウンセリング研修会)や学術集会に参加し、性治療について学んできました。また、素晴らしい諸先生方ともお近づきになれて、ご指導を受けることもできました。今後ますます日常の性機能障害や男性不妊の診療に性治療の手技を取り入れていきたいと思っています。

セックス・セラピスト認定の申請をする前後にどのような先生方がこの資格をお持ちなのか調べようと思いましたが、学会としてのセックス・カウンセラー、セラピストの名簿の公表はなく、更新された方、新規取得された方のお名前が「日本性科学会ニュース」に掲載されているぐらいでした。あとは個々の先生がご自分のホームページに載せていらっしゃいますが、そんなに多くはいらっしゃいません。クライアントや治療に困った医療機関が近くにいらっしゃるカウンセラー、セラピストを検索するのが難しい状況があると思います。

また、泌尿器科医においてさえ、日本性科学会認定セックス・カウンセラー、セラピストの認知度も高くはないと思います。

そこで、認定していただいたばかりのものが提案するのもおこがましいのですが、掲載を了承された方については、学会ホームページでカウンセラー・セラピストのお名前、所属機関を掲載してはいかがでしょうか？これにより、クライアントも増えると思いますし、資格取得希望者の増加にもつながるのではないかでしょう？

この場をお借りして提案させて頂きました。役員の先生方にご検討いただければ幸いです。

今後とも性治療の研鑽を積んでいく所存ですので、よろしくお願ひいたします。

心理症例研究会のお知らせ

心理臨床を行う方を対象に、症例研究会を行います。性に関する症例を検討し、性への理解を深め、臨床の力を強化するためです。関心のある方は、事務局に、お問い合わせください。

対象：臨床心理士あるいは臨床心理士を目指す方で、症例を提示できる方

日時：隔月、原則として、土曜日か日曜日

次回：6月14日 5時から（それ以降は、6月14日に決まりますので、お問い合わせください。）

場所：日本性科学会カウンセリング室

その他：クローズドで行いますので、継続しての参加を期待します。